

CSRマネジメントシステム

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、CSR活動を円滑に推進するため、グループで意思統一を図り、推進体制を整備しています。

地域に根ざした社会貢献活動を推進します

当社はCSR活動の推進にあたり、関係部門長で構成する委員会 で方向性などを決定し、全社および各事業所で具体的な活動 展開を図っています。当社のCSR活動の方針はトップコミットメ ントの通りです(▶P1)。

それぞれの取り組みの状況については、以下のページで報告 いたしますが、その中で、社会貢献活動についての考え方の一 端を申し述べますと、「企業理念にある『豊かな社会の発展に貢 献する』に基づき、よき企業市民として幅広い社会貢献を推進す る」ことを理念に掲げています。またその活動指針は「ニッパツ は『人を大切にする』企業風土を通じて、すべての人のところが

弾むような『ひとづくり、まちづくり、社会づくり』をめざします」とし、各地で行う活動では「こころはいつもスプリング」という 当社の主力製品の「ばね」と「春(温かな気持ち)」をかけた合い 言葉を掲げて、地域社会の一員として地元で根ざした取り組み を行っています。

これからも、社会貢献活動をはじめと するCSR活動の充実に向けて、さらに積 極的に取り組んでいきます。

CSR推進委員長
代表取締役副社長
長澤 國雄



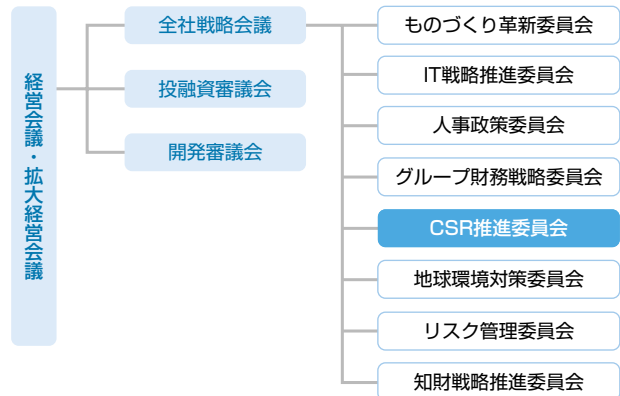
CSRの考え方

当社は、企業理念の中に「豊かな社会の発展に貢献する」と うたわれている通り、創立当初から企業としての社会的責任 を果たすための取り組みを行ってきました。業界他社に先が けた地球環境への取り組み、長年にわたる地域貢献など、多 くの活動が定着したものとなっています。

CSR推進体制

全社戦略会議の下部組織として、本社機能に即した委員会 を設置し、企業価値向上に向けた審議機関として活動してい ます。具体的な活動として、サプライヤーなどを含めた「も のづくり革新委員会」、情報セキュリティなどを含めた「IT戦 略推進委員会」、人財の育成や雇用などを検討する「人事政策 委員会」、グループ資産調達の最適化を検討する「グループ財 務戦略委員会」、社会貢献活動の方針検討とともにCSR推進 活動全般をとりまとめる「CSR推進委員会」、地球環境保全 を推進する「地球環境対策委員会」、リスクマネジメントを行 う「リスク管理委員会」、特許などの知的財産をとりまとめる 「知財戦略推進委員会」があり、それぞれの委員会を中心にニ ッパツグループのCSR活動を体系的に推進しています。

■ 経営会議と各委員会



CSR推進活動

全社戦略会議の直下に置かれた委員会はそれぞれ、幅広い 活動を行うため、関連する様々な部門長をメンバーに選出し、 活動の充実に向けた活発な討議を行っています。

それぞれの委員会で討議された活動方針に基づき、担当部 門が中心となって、各事業所やグループ会社などとも連携を 図りながら推進しています。またサプライヤーはもとより、地 域行政やNPO団体とも協力しながら、それぞれの地域に根ざ した活動を積極的に展開しています。

ガバナンスとコンプライアンス

健全な事業活動を継続するため、ガバナンス体制の整備とコンプライアンスの徹底を図っています。

コーポレート・ガバナンス

意思決定機関としては株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員制を採用し、取締役は7名となりました。

審議機関としては、経営会議、各委員会がありますが、特に経営会議は少数で意見交換できるように取締役および常勤監査役で構成しています。監査機関として監査役会は、現在4名の監査役のうち、従前から2名の社外監査役が就任しています。内部統制の仕組みについては、内部監査部を設置し、業務の適正性と効率性の観点から内部監査体制の充実を図っています。2008年度より施行された金融商品取引法に対応し、グループ全体で内部監査体制を強化し、運用しています。

また、2007年度に法務部を新設し、法務機能の充実を図るとともに、顧問弁護士からは、顧問契約に基づき必要に応じたアドバイスを受けています。

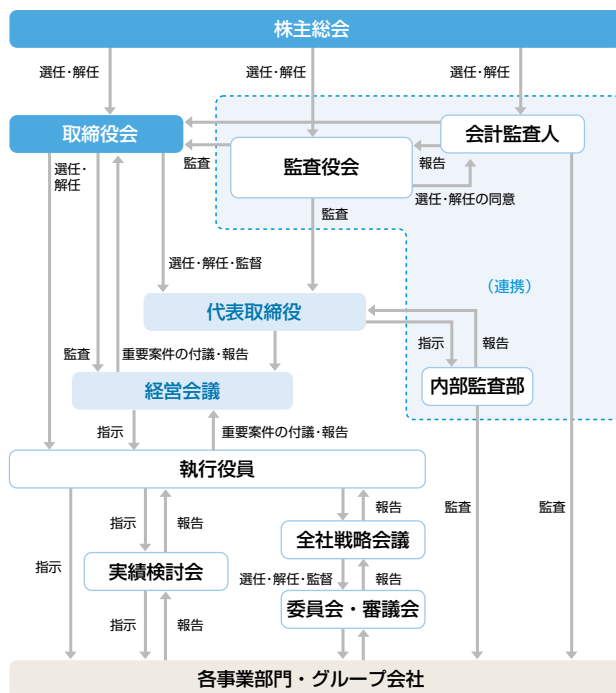
コンプライアンス（法令順守）

当社は、コンプライアンスを、法令順守はもちろん、ニッパツに対する社会の要求に誠実に応えることと捉え、事業活動のそれぞれの局面において順守すべき具体的事項と社会的要求を「ニッパツ社員の行動指針」として定めて、コンプライアンスをニッパツ経営の大きな柱の一つとしました。

このコンプライアンス経営実現のため、社長をコンプライアンスの最高責任者とし、全部門を統括する推進責任者、各部門に指導責任者を配置したコンプライアンス体制をとっています。

そして、各階層ごとの集合研修および全員が受講するe-ラーニングなど多様な教育を通じて、「ニッパツ社員の行動指針」の浸透とコンプライアンス意識の高揚を図っています。

■ガバナンス体制図



VOICE

個人の高いモラル意識とそれを支えるシステム

当社のコンプライアンスを支えるのは構成員である私たち一人ひとりの高いモラル意識とその実践です。そして同時に、その基盤となる職場環境やシステムの整備が必要です。当社は具体的な仕組みとして、2007年度に法務部を新設し、日々の法律相談やビジネスサポートを通じて適法かつ適正なビジネスの実現を図っています。また、以前から設けていた社内の事前相談制度および内部通報制度に加え、外部通報制度を導入し、社内にとどまらず広く社会の皆様からの指摘をいただき、自浄していくシステムを構築しました。

私たちは常に情報アンテナを張りめぐらせ、今求められているものは何か、その要求にいかに応えるかを考えながら、「総智」を集め、コンプライアンスに取り組んでいきます。



法務部主管
寺田 佳樹

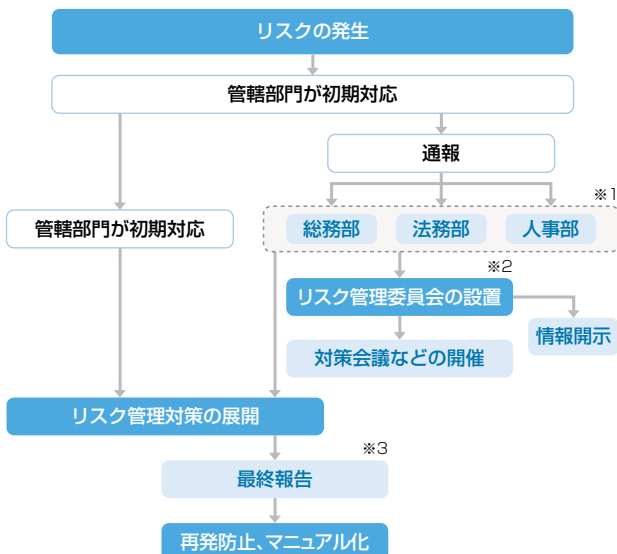
リスクマネジメント

リスク管理体制を整備するとともに、あらゆるリスクの対応に取り組んでいます。

リスク管理体制

法的リスク、財務リスク、情報漏えいリスク、災害リスクなど、当社を取り巻く様々なリスクに的確に対処するため、社内にリスク管理委員会を設けています。2009年度は、事業継続(早期復旧)の観点から、新型インフルエンザの対応策を新たな活動項目とします。委員会では、災害発生などの緊急時の対応、組織・ルールづくりといった体制整備などの活動を行っています。今後も継続してリスクマネジメントの向上を図っていきます。

■リスク発生時のフロー・チャート



情報セキュリティの確保

当社およびグループ各社は、お客様やサプライヤーとの取引における情報の流出防止について、2003年12月にその基本となる「セキュリティマネジメントポリシー基本方針」を制定しました。この対策基準、実施手順の運用により情報の保護に努めています。

ポリシーの適用者は、当社および関連会社の役員、従業員、外務委託業者の従業員(派遣社員、アルバイトを含む)としています。保有する情報資産は、機密度や内容に応じて、重要

度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などを予防しています。

VOICE

発生の予防やリスクの最小化を図る取り組みを

当社および当社グループで起こる可能性のあるリスクに対して、発生の予防やリスクを最小限におさえるように取り組むことが重要です。当社は、取引先や協力会社はもちろんのこと、当社を取り巻くすべてのステークホルダーに対して、リスクマネジメントを着実に進めています。

2008年度の活動として、防災対策では、災害時の通信網の整備と食料や水などの備蓄、復旧対策についてレベルアップを図りました。また、機密情報管理では、外部への情報漏えいについての対策や体制づくりの充実



を図りました。今後もグループ全体でさらなるレベルアップに努めていきます。

総務部主査
大久保 誠範

情報セキュリティの仕組みづくりと定着を図りたい

情報セキュリティは、社内の重要な情報を安全かつ安定して利用できるビジネス環境実現の基盤となるものです。当社では「セキュリティマネジメントポリシー基本方針」に基づき、当社の情報資産を保護し、業務を円滑に遂行するための基本的考え方を定め、関連規程類の整備、e-ラーニングによる従業員教育など、情報セキュリティのレベル向上に努めています。

また、2009年3月に情報システム部に企画グループを新設し、IT統制の強化による内部統制の確保や利用部



門との情報共有など、さらなる仕組みづくりを進め、グループ全体への定着を図っています。

情報システム部主査
木内 智